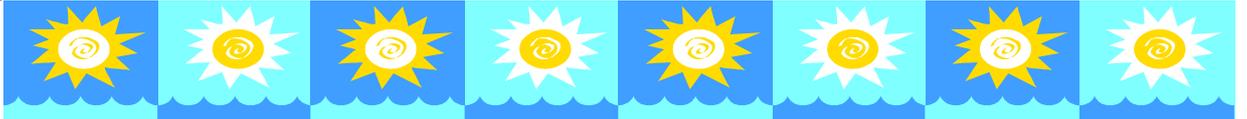


特集！有資格者に聞く！



検査科 岸元秀起さん 超音波検査士

**暑中お見舞い申し上げます！暑い夏、皆様いかがお過ごしでしょうか？
時には夜風に当たって星空を眺めてみるのも爽やかな気分になります。
今回は、検査科の岸元秀起さんに超音波検査士の資格について詳しくお伺いしました。
岸元さんよろしく申し上げます。**

Q： まず初めに何故この資格を取ろうと思われましたか？

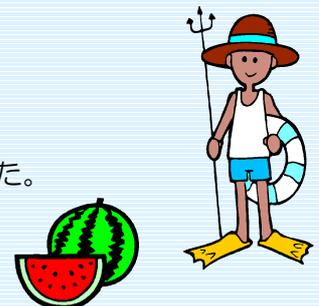
A： 私は、2006年4月にこの資格を修得しました。4年前から心エコーの検査をやり始めましたが、日常業務を重ねていくうちに臨床症状と合わないエコー像に出くわした時や、学会発表の準備をしている時など資格の必要性を感じ取得しようと思いました。

Q： 資格の内容を教えてください。

A： 日本超音波学会の認定している資格です。超音波そのものの基礎、又、専門領域での超音波検査と病気とのかかわりを正しく理解し、より正確なデータを提供するのが目的です。
現在5500人がこの資格を持っています。

Q： 受験に際してどのような準備をしましたか？

A： 過去の試験問題集を購入しました。
それと、年1回年末にある超音波検査士受検セミナーにも参加しました。
それ以外には年2回発表している超音波医学会への出席も何かと試験には有用だったと思います。





Q：勉強にはどのくらい時間と費用がかかりましたか？

A：1年くらいかかりましたが、仕事の手が空いている時や、晩酌をしている時など時間をみて勉強しました。費用は、受験に20,000円、認定申請に5,000円かかりました。

Q：受験されるうえで苦労したことはありますか？

A：超音波の基礎は私にとっては高度な物理学なので、それを理解するのに苦労しました。

Q：資格の更新に必要な手続きはありますか？

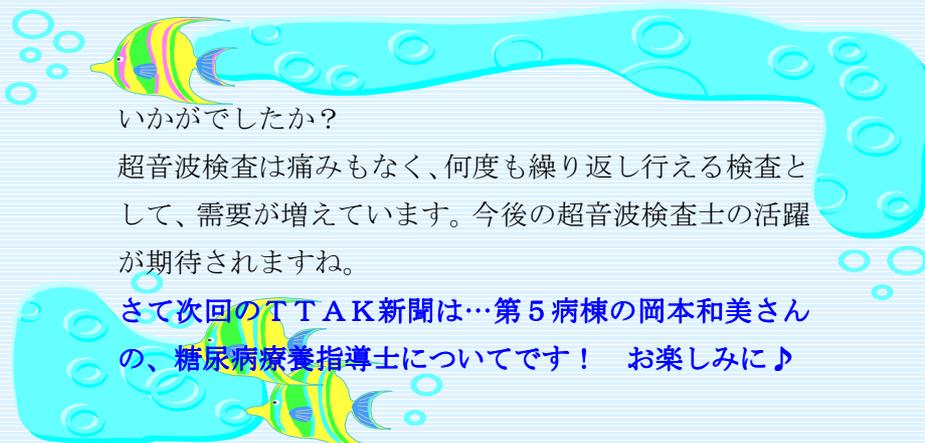
A：まだはっきりとは分かっていませんが、学会への出席又は、発表なんかでポイントを重ねていくようです。

Q：今後の抱負を聞かせてください。

A：循環器領域においてまだまだ分からないことが多いですが、資格を取ってからは、エコー画像を今まで以上にいろんな角度から見えるようになりました。

今後も、もっと勉強して、少しでも患者様の役に立つエコー像が得られるように努力していきたいと思っています。又、この3月から腹部の超音波も勉強させてもらっています。

1日も早く、他の先生方のようにエコーが記録できるように頑張っていきたいと思っています。



いかがでしたか？

超音波検査は痛みもなく、何度も繰り返し行える検査として、需要が増えています。今後の超音波検査士の活躍が期待されますね。

さて次回のTTAK新聞は…第5病棟の岡本和美さんの、糖尿病療養指導士についてです！ お楽しみに♪

TTAK新聞のバックナンバーは
播磨病院ホームページ <http://www.harima-hp.jp/main.htm> からご覧になれます。

BY S・M